

INOYAMALAND イノヤマランド

1977年夏、井上誠と山下康は、巻上公一のプロデュースする前衛劇の音楽制作のために出会い、メロロンとシンセサイザー主体の作品を制作する。

この音楽ユニットは山下によってヒカシューと名付けられ、1977年秋からエレクトロニクスと民族楽器の混在する即興演奏グループとして活動を始めた。

1978年秋、巻上公一(B,Vc)、海琳正道(G)らが参入、グループはリズムボックスを使ったテクノポップ・バンドへと変身を遂げ、1979年にメジャーデビューした。

1982年以降、井上と山下はヒカシューの活動と並行して 2 人のシンセサイザー・ユニット、イノヤマランドをスタート 1983年に YMO の細野晴臣プロデュースにより ALFA/YEN より 1st アルバム『DANZINDAN-POJIDON』がリリースされた。

その後、2人は各地の博覧会、博物館、国際競技場、テーマパーク、大規模商業施設などの環境音楽の制作に関わり、1997年に Crescent より 2nd アルバム『INOYAMALAND』、1998年には TRANSONIC より 3rd アルバム『Music for Myxomycetes (変形菌のための音楽)』をリリース。10数年振りとなるライブを行った。

21世紀に入り、1st アルバムをはじめとする各アイテムが海外の DJ、コレクターの間で高値で取引され、多数の海外レーベルよりライセンス・オファーが相次ぐなど、再評価が高まる。

2018年以降、グループ結成のきっかけとなった1年の前衛劇のオリジナル・サウンドトラック『COLLECTING NET』、3rd アルバム『Music for Myxomycetes & Deluxe Edition』、1st アルバム『DANZINDAN-POJIDON [New Master Edition]』、2nd アルバム『INOYAMALAND [Remaster Edition]』977連続リイシューとなる。

中でも世界的に再評価される『DANZINDAN-POJIDON』は、オリジナルマルチトラックテープを最新技術で再ミックスダウン、マスタリング、ジャケットもオリジナルの別カットのポジを使用し、新たな仕様で再登場した。

また、インターネットストリーミング番組 DOMMUNE、当時のプロデューサーだった細野晴臣のラジオ番組 Daisy Holiday! へのゲスト出演なども話題となった。

近年はアンビエントフェスのヘッドライナーを務めるなど、ライブ活動も積極的に行いながら、海外展開も開始し、『DANZINDAN-POJIDON』をスイスの WRWTFWW から、1st 以外のアルバムから選曲したコンピレーションアルバム『Commissions:1977-2000』をアメリカの Empire of Signs よりリリース、2019年にはアメリカの Light in The Attic が制作した、80年代の日本の環境音楽・アンビエントを選曲したコンピレーションアルバム『環境音楽 Kankyō Ongaku』に YMO、細野晴臣、芦川聡、吉村弘、久石譲、インテリア、日向敏文等と並び選曲され、グラミー賞のヒストリカル部門にノミネートされるなど、更に脚光を浴びる。

2020年、22年振りとなる完全新作による 4th アルバム『SWIVA』をリリースし、コロナ禍の中にありながら、その音楽の特性からクラブミュージックの世界的ストリーミング番組 BOILERROOM や FRUE などのフェスティバルに出演。

2021年2月、国際的に芸術文化活動を展開する MUTEK JP に出演し、同年12月には 5th アルバム『Trans Kunang』が早くも完成。山下がインドネシアの印象から作り上げた多くのモチーフを井上が半世紀以上前のジャズやヨーロッパ映画音楽の遙かな記憶でランダムに装飾したアルバムは“幻の観光地”がテーマとなっている。



<https://inoyamaland.amebaownd.com/>

chiharu mk

フランスGRMで電子音響音楽を学ぶ。1st Album「piano prizm」が国内・海外で話題となる。Out of the concert hall をテーマに横浜三溪園旧燈明寺、モエレ沼公園、水族館巨大水槽前ほかでライブパフォーマンス。香港アートセンター40周年記念事業にゲスト出演。2020年中国・麗江で滞在制作中にコロナで緊急帰国。2021年にはイギリスのアート・ラボ「IKLECTIK」と「ZAPT」委嘱による新作を発表。 <https://www.studio-cplus.net/>